

略歴

永尾 孝雄 (ながお たかお) 教授

1950年2月24日生まれ 福岡県久留米市出身

最終学歴

1980年3月 九州大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学

学位

1996年3月 博士（法学）取得（九州大学法博乙第42号）

職歴

- 1980年4月 熊本女子大学生生活科学部専任講師（1982年3月まで）
- 1982年4月 熊本女子大学生生活科学部助教授（1994年3月まで）
- 1994年4月 熊本県立大学総合管理学部教授（2015年3月まで）
- 1998年4月 熊本県立大学大学院アドミニストレーション研究科修士課程教授
- 2000年4月 熊本県立大学大学院アドミニストレーション研究科博士後期課程教授
- 2003年4月 熊本県立大学附属図書館長（2005年3月まで）
- 2006年4月 熊本県立大学大学院アドミニストレーション研究科長
（2008年3月まで）
- 2008年4月 熊本県立大学総合管理学部地域・福祉ネットワークコース長
（2013年3月まで）

在外研究

1988年9月 西ドイツ、ポッフム大学ヘーゲル・アルヒーフ（1989年8月まで）

本務校以外で務めた非常勤講師

- 熊本大学教養部
- 熊本学園大学経済学部
- 熊本県立保育大学校
- 熊本県立技術短期大学校

賞罰

2012年11月 厚生労働大臣表彰

所属学会

- 1975年11月 日本法哲学会（理事：2005年11月～現在まで）
- 1978年 6月 九州法学会（現在まで）
- 2003年10月 日本生命倫理学会（現在まで）

社会での活動

- 1980年4月 熊本県消費生活センター・苦情処理委員会委員（1988年3月まで）
- 2002年4月 熊本県高年齢者雇用促進委員会委員（2014年3月まで）
- 2003年4月 熊本地方労働審議会委員（会長：2005年4月～2014年3月）
（2014年3月まで）
- 2007年2月 熊本県個人情報保護制度審議会委員（2014年3月まで）
- 2007年1月 熊本県本人確認情報保護審議会委員（2014年3月まで）

主な研究業績

I、著書

1、単著

- 『ヘーゲルの近代自然法学批判』（九州大学出版会、1998年1月）
- 『基礎法学概論』（法律文化社、2000年4月）
- 『現代法学概論』（法律文化社、2012年4月）

2、編著

- 『自由と正義の法理念』（成文堂、2003年7月）
- 『現代の国家と法律』（創言社、2008年10月）
- 『現代における法と倫理』（創言社、2012年10月）

3、共著

- 『法と国家の基礎に在るもの』（三島淑臣編、創文社、1989年11月）
- 『法と生活（第6版）』（磯野有秀・伊藤平八郎編、創言社、1994年4月）
- 『法律学フローチャート』（粟屋剛編、法律文化社、1996年5月）
- 『法思想の伝統と現代』（田中成明、酒匂一郎編、九州大学出版会、1998年11月）
- 『医療テクノロジーと生命倫理』（粟屋剛編、徳山大学総合経済研究所、2000年3月）
- 『法哲学入門』（三島淑臣編、成文堂、2002年3月）
- 『新千年紀のパラダイム』
（熊本県立大学総合管理学会編、九州大学出版会、2004年5月）

- 『熊本学のススメー地域学入門一』（熊本県立大学編、2008年4月）
『総合知の地平』
（熊本県立大学総合管理学会編、九州大学出版会、2014年12月）

II 論文

1、単著

- 「初期ヘーゲルにおける人間と法」
（九州大学法学部大学院『九大法学』39号、1980年1月）
「ヘーゲル「ドイツ憲法論」についての一考察」
（熊本女子大学学術紀要・34巻、1982年3月）
「若きヘーゲルと国家」
（日本法哲学会編『法哲学年報1981』、有斐閣、1982年9月）
「暮らしと法律—日本人の法意識—」
（熊本女子大学生生活文化研究所編『研究所報』第3巻1号、1984年4月）
「ヘーゲル自然法学批判の基礎視座」（『法の理論』第7号、成文堂、1986年8月）
「アルトゥール・カウフマンにおける抵抗権と法」
（熊本女子大学学術紀要・40巻、1988年3月）
「自然法と歴史の問題」（『法と国家の基礎に在るもの』、創文社、1989年11月）
「ケルゼンの法理論と哲学的相対主義」
（熊本女子大学学術紀要・第43巻第1号、1991年3月）
「死刑と人権」
（熊本女子大学生生活文化研究所編『研究所報』第10巻1号、1991年12月）
「アルトゥール・カウフマン法哲学の成立と構造」
（日本法哲学会編『法哲学年報1991』、有斐閣、1992年10月）
「滝沢哲学におけるヘーゲルの影響について」
（熊本県立大学『アドミニストレーション』第2巻1号、1994年7月）
「法律学の基礎理論」（『法律学フローチャート』、法律文化社、1996年5月）
「ヘーゲル法哲学とガンズ」
（熊本県立大学『アドミニストレーション』第4巻1号、1997年7月）
「イェナ期ヘーゲルにおける国家と社会」
（『法思想の伝統と現在』、九州大学出版会、1998年11月）
「法と道徳の区別と連関」
（熊本県立大学『アドミニストレーション』第5巻3号、1999年3月）
「法と正義—思想史的考察—」
（熊本県立大学『アドミニストレーション』第6巻2・3合併号、2000年2月）
「生殖医療技術と生命倫理」
（『医療テクノロジーと生命倫理』、徳山大学総合経済研究所、2000年3月）

- 「法とは何だろうか」(『法哲学入門』、成文堂、2001年3月)
- 「現代日本の国家と天皇制」
(熊本県立大学『アドミニストレーション』第8巻1・2合併号、2001年9月)
- 「現代家族の危機と教育」
(熊本県立大学『アドミニストレーション』第9巻3・4合併号、2003年3月)
- 「カント家族法論の現代性」(『自由と正義の法理念』、成文堂、2003年7月)
- 「ヴェーバーにおける学問・政治・倫理」
(『新千年紀のパラダイム』、九州大学出版会、2004年5月)
- 「ホセ・ヨンパルト著『学問と信仰—法学者の省察』を読む」
(『法の理論24』、成文堂、2005年11月)
- 「福祉と人権—ホームレスの自立支援をめぐる—」
(『熊本学のススメ—地域学入門—』、熊本県立大学、2008年4月)
- 「ヘーゲル法思想と近代」
(日本法哲学会編『法哲学年報2007』、有斐閣、2008年10月)
- 「法治国家と市民的不服従」
(熊本県立大学『アドミニストレーション』第18巻3・4合併号、2012年3月)
- 「ハンス・ケルゼンの初期憲法理論」
(熊本県立大学『アドミニストレーション』第19巻2号、2013年2月)
- 「ケルゼン国家学とデモクラシー論」(『総合知の地平』、九州大学出版会、2014年12月)

2、共著

- 「出生前診断の現状と課題」
(熊本県立大学『アドミニストレーション』第16巻2号、2009年10月)

III 調査報告書(共著)

- 『市町村の自主的合併に関する研究調査報告書』
(熊本県市町村合併調査研究委員会、1996年3月)

IV 学会報告(単独)

- 「法哲学の現在と未来」
(日本法哲学会1991年度学術大会、於日本大学、1991年11月)
- 「カウフマンの正義論と抵抗権」
(九州法学会第86回学術大会、於長崎大学、1992年11月)
- 「ヘーゲル法思想と近代」
(日本法哲学会2007年度学術大会、於同志社大学、2007年11月)